

観光地特性を考慮した観光地魅力度の定量的評価に関する調査分析*

On Evaluation of Attractiveness of Tourist Spots in Consideration of their Properties*

牧野博明**, 加藤浩徳***, 藤田哲男****, 小久保恵三*****

By Hiroaki MAKINO**, Hironori KATO***, Tetsuo FUJITA****, Keizo KOKUBO*****

1. はじめに

観光市場においては、近年の個人化、少グループ化傾向により、旅行ニーズの多様化が急速に進みつつある。それに伴い、各地とも地域独自の魅力を最大限に発揮できる個性ある観光地づくりに取り組む必要が高まっている。また、こうした多様な旅行ニーズに的確に対応した観光地の客観的且つ明確な情報の提供が、社会的に期待されている。したがって、全国各地の観光地の魅力度を客観的・定量的に捉え、それを利用者に提供していくと同時に、観光振興をめざす関係者が観光地づくりを進めていく上での基礎的資料の作成が強く望まれる。

そこで本研究では、観光地の魅力度を客観的・定量的に評価する手法の開発を目的とする。

観光地の魅力度評価を行う手法としては、すでに室谷¹⁾のモデルが提案されている。このモデルの特徴は、全国の観光地の一体的評価ならびに各種データに基づく客観的な評価が可能な点である。しかし、魅力度を構成する要素の一つとして取り上げられている「空間快適性」の定義が曖昧で分析者の恣意が介入する可能性のあること、全ての観光地を一律に捉えているため観光地の特性を無視した評価が行なわれていること、観光客の属性を考慮していないこと、魅力度を観光客のリピート率で評価するなどウエイトパラメータの推定方法に改善の余地がある等の課題がある。

そこで、本研究では基本的に室谷のモデルの考え方を踏襲しながら、より精度が高く現実に即したモデルの構築を目指すものとする。

なお、本研究では、我が国の 58 箇所の観光地を分析の対象とし、また、対象とする観光客は日本人のみとする。

2. 魅力度の基本的な考え方

まず、各観光地の魅力は、図 1 に示すような大項目並びに小項目の 2 段階に階層化された構造により説明されると仮定する。そして魅力度は、各項目の評価点をウエイトパラメータによって重みづけし、加算することにより算出されるものとする。ウエイトパラメータは、学識経験者と観光関係従事者へのアンケート調査によって設定される。

なお本研究では、対象観光地をその特性に合わせて複数のタイプ（自然、温泉、都市、歴史、スポーツ・レクリエーション）に分類し、ウエイトパラメータがタイプにより異なるよう設定する。

また、評価は旅行形態や旅行者の属性によっても異なることが予想される。そこで、旅行形態としては、家族旅行（夫婦、子供連れ等）と団体旅行の 2 種類に分類する。また、旅行者属性としては、女性、男子学生、20・39 歳の男性、40 歳以上の男性の 4 種

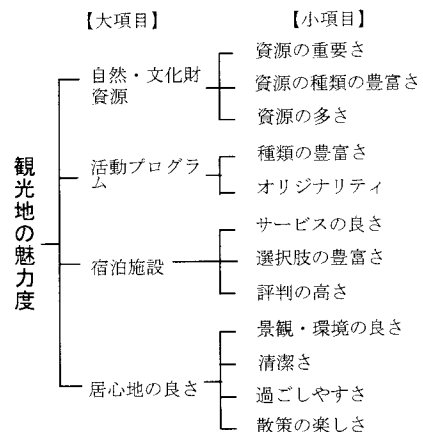


図 1 観光地魅力度の基本構造

* Keywords : 観光地魅力、観光地特性

** 正員, (財) 日本交通公社
〒100-0005 東京都千代田区丸の内 1-8-2
TEL(03)5208-4734

*** 正員, 博 (工), 東京大学大学院工学系研究科社会基盤工学専攻

**** 非会員, (財) 運輸政策研究機構

***** 非会員, 流通科学大学サービス産業学部

類に分類することとする。

3. 得点ならびにパラメータの推定

観光地魅力度の小項目得点，ならびに大・小両項目のウエイトパラメータを決定するために，データの収集並びに分析を行った。

(1) 小項目得点の設定

小項目得点については，項目の見直しを行い新たに設定した「居心地の良さ」を除き，室谷と同一のデータを用いることとした。「居心地の良さ」については，全国の観光地事情に詳しい観光研究学会の会員複数名に得点づけ（５段階）を依頼し，その結果を用いて設定した。得点の決定に当たっては，全有

表 1 温泉観光地における小項目得点

	a			b			c			d			
	a1	a2	a3	b1	b2		c1	c2	c3	d1	d2	d3	d4
登別	1	1	2	3	2		2	2	4	1	3.0	3.3	3.5
飯坂	1	1	1	1	1		3	1	1	1	2.3	3.5	2.3
草津	1	4	4	5	3		3	5	3	3	3.6	4.0	4.0
伊香保	1	1	2	4	2		3	3	3	4	4.0	4.0	3.0
野沢	1	1	1	4	4		4	2	1	4	4.0	3.7	3.5
石和	1	1	1	4	1		2	2	1	2	2.0	3.3	1.8
熱海	1	1	2	5	2		2	4	5	2	2.8	2.5	3.3
下呂	1	2	2	2	2		4	3	3	2	2.5	3.3	2.3
山代	1	1	1	3	1		3	3	3	2	2.3	3.3	2.3
白浜	1	3	3	4	3		3	4	4	2	4.0	3.0	3.5
城崎	1	1	2	4	2		5	1	2	4	4.0	4.3	3.3
三朝	1	2	2	2	1		4	2	2	3	3.8	4.0	3.5
道後	1	2	3	2	2		4	2	3	3	4.0	3.8	3.0
粟仙	2	3	2	3	2		5	2	5	4	4.0	4.0	4.3
別府	2	2	2	4	3		3	3	3	2	2.6	3.3	2.8
由布院	1	2	2	4	3		5	5	4	4	4.0	4.3	3.8
指宿	1	2	2	3	2		4	3	3	3	3.0	3.7	3.3

※ a: 自然・文化財資源

a1: 資源の豊富さ

a2: 資源の種類の豊富さ

a3: 資源の多さ

b: 活動プログラム

b1: 種類の豊富さ

b2: オリジナリティ

c: 宿泊施設

c1: サービスの良さ

c2: 選択肢の豊富さ

c3: 評判の高さ

d: 居心地の良さ

d1: 景観・環境の良さ

d2: 清潔さ

d3: 過ごしやすさ

d4: 散策の楽しさ

表 2 温泉観光地の小項目ウエイトパラメータ

	a			b			c			d			
	a1	a2	a3	b1	b2		c1	c2	c3	d1	d2	d3	d4
家族学生	4.1	2.9	3.0	5.4	4.6		4.4	3.0	2.6	2.4	3.0	2.7	1.9
20～39歳	4.6	2.7	2.7	4.4	5.6		4.4	2.2	3.4	3.4	2.1	2.0	2.5
40歳以上	4.4	2.9	2.7	4.8	5.2		5.0	2.1	2.9	2.4	2.4	1.7	3.5
旅行女性	3.7	3.1	3.2	5.4	4.6		3.8	2.2	4.0	2.1	2.7	2.9	2.3
団体学生	3.5	3.3	3.2	5.6	4.4		3.7	3.5	2.8	2.1	2.8	2.8	2.3
20～39歳	4.2	3.1	2.7	5.7	4.3		4.4	2.3	3.3	2.7	2.2	2.4	2.7
40歳以上	4.5	2.9	2.6	4.8	5.2		4.0	2.3	3.7	2.4	2.6	2.0	3.0
旅行女性	3.3	3.7	3.0	6.0	4.0		3.1	3.0	3.9	2.2	2.9	2.8	2.1
既存モデル（文献1）	5	2.5	2.5	3	7		5	3	2	—	—	—	—

注：項目名は表1の※と同一

表 3 温泉観光地の小項目ウエイトパラメータ

	a	b	c	d
家族旅行	1.7	2.3	3.2	2.8
団体旅行	1.5	2.7	3.1	2.7
既存モデル（文献1）	2.5	1.1	1.7	4.7

注：項目名は表1の※と同一

効回答のうち，一定の分散値の範囲外に属する回答を削除した上で，残りの回答の平均値を用いた。得点の例を温泉観光地について示したものの表1である。

(2) 大項目，小項目のウエイトパラメータの決定

ウエイトパラメータは，大項目については学識経験者に，小項目については観光関係従事者にそれぞれアンケート調査を行い，その結果を用いて設定した。決定に当たっては，先と同様に，全有効回答のうち，一定の分散値の範囲外に属する回答を削除した上で，残りの回答の平均値を用いた。

温泉観光地を例に，大項目ならびに小項目のウエイトパラメータを示したものが表2と表3である。ただし，いずれもウエイトパラメータは合計して10になるように調整している。

4. 魅力度の試算

上記で推定されたモデルを用いて，55 観光地（58 観光地のうち，観光地タイプ分類に該当しなかった3 観光地を除いた）の魅力度をそれぞれ算出した。それらのうち，温泉観光地における魅力度算出結果を示したものが表4である。なお，表中で示しているランクは，温泉観光地の場合，

ランクA…17の温泉観光地のなかで，魅力度が上位の箇所

ランクB…同中位の箇所

ランクC…同下位の箇所

である。したがって，このランクはあくまでも，17

表 4 温泉観光地における総合魅力度評価結果

	男子学生		20～39歳男性		40歳以上男性		女性		既存モデル（文献1）	
	総合	魅力度	総合	魅力度	総合	魅力度	総合	魅力度	総合	魅力度
登別	244.6	C	232.1	C	233.3	C	235.2	C	167.9	C
飯坂	173.0	C	169.5	C	173.5	C	167.9	C	117.9	C
草津	363.3	A	349.3	A	351.5	A	360.1	A	304.3	A
伊香保	290.2	B	286.9	B	287.0	B	289.3	B	275.4	B
野沢	268.5	B	267.6	B	269.3	B	269.3	B	281.1	A
石和	197.3	C	184.6	C	189.7	C	191.4	C	170.5	C
熱海	291.1	B	285.3	B	280.8	B	299.8	A	188.1	C
下呂	267.3	C	254.4	C	257.0	C	255.0	C	213.6	C
山代	235.0	C	224.4	C	226.3	C	238.9	C	238.1	B
白浜	315.1	A	308.1	A	308.5	A	315.9	A	263.3	B
城崎	300.4	A	299.0	A	298.6	A	297.2	A	335.8	A
三朝	260.4	B	257.4	B	262.9	B	256.9	B	230.3	B
道後	275.2	B	276.5	B	280.3	B	276.5	B	281.2	B
粟仙	344.4	A	349.4	A	352.2	A	352.9	A	315.8	A
別府	291.6	B	287.2	B	288.3	B	291.1	B	231.3	B
由布院	275.3	A	270.9	A	272.9	A	271.3	A	366.9	A
指宿	286.1	B	280.1	B	282.3	B	284.1	B	263.3	B
常盤	249.7	C	239.0	C	234.3	C	244.2	C	167.9	C
飯坂	165.2	C	167.3	C	165.9	C	165.0	C	117.9	C
草津	373.4	A	369.3	A	356.1	A	374.5	A	304.3	A
伊香保	293.3	B	294.0	B	289.6	B	295.9	B	275.4	B
野沢	301.2	B	305.0	B	301.5	A	294.0	B	281.1	A
石和	201.8	C	198.9	C	191.8	C	202.0	C	170.5	C
熱海	303.5	A	300.3	B	295.4	B	313.7	A	188.1	C
下呂	254.0	B	253.8	C	253.1	B	252.8	B	213.6	C
山代	253.0	C	251.6	C	227.6	C	236.9	C	238.1	B
白浜	273.3	A	317.6	A	315.3	A	306.8	A	263.3	B
城崎	296.4	B	307.1	A	299.6	B	294.2	B	335.8	A
三朝	253.7	C	257.2	B	262.4	C	251.4	C	230.3	B
道後	279.2	B	274.3	B	273.5	B	269.9	B	281.2	B
粟仙	355.7	A	349.8	A	347.0	A	344.8	A	315.8	A
別府	296.1	B	295.9	B	293.2	B	297.4	B	231.3	B
由布院	378.2	A	376.3	A	372.4	A	375.4	A	366.9	A
指宿	285.0	B	284.6	B	280.7	B	284.9	B	263.3	B

観光地における相対評価であることに留意が必要である。

この結果、旅行形態、旅行者属性によって全く評価が変化しない観光地（例えば、湯布院）と、変化する観光地（例えば、下呂）があることがわかる。また、室谷の結果とはかなり異なる結果が得られる観光地（例えば、熱海）があることもわかる。

5. 推定結果の考察

(1)小項目ウエイトパラメータの比較

図2は、「自然・文化財資源」について、評価者（旅行者）の属性間における重みを旅行形態別に比較したものである。これを見ると、男性のグループはほぼ同様の傾向を示しているのに対し、女性は男性と異なる傾向を示している。特に、女性は男性よりも「資源の種類の豊富さ」に大きなウエイトを置く傾向にあることがわかる。

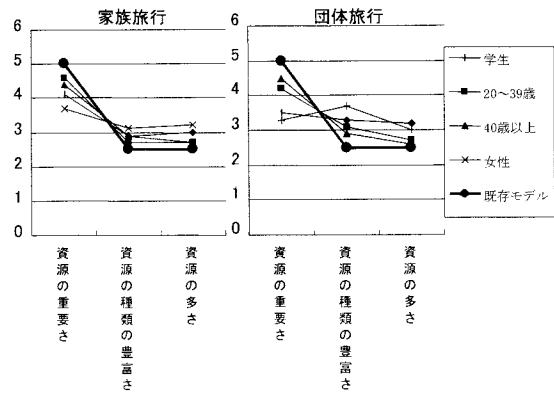


図2 「自然・文化財資源」の小項目ウエイトパラメータの比較

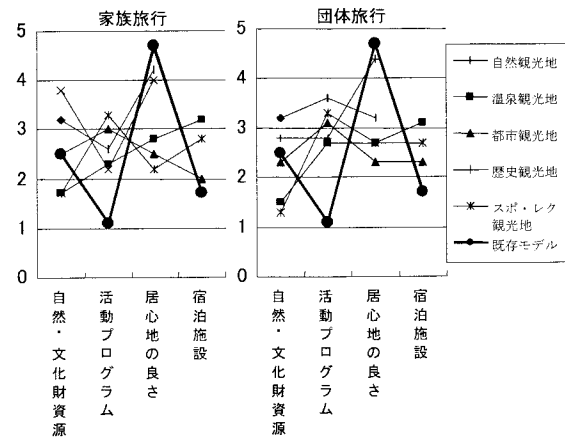


図3 観光地タイプ別間の大項目ウエイトパラメータの比較

(2)大項目ウエイトパラメータの比較

図3は、観光地タイプ間における大項目の重みを旅行形態別に比較したものである。

これを見ると、小項目以上に、観光地タイプ及び旅行形態により項目（要素）の重視の度合いに異なりが表れていることが分かる。

(3)魅力度構成内容に関する考察

どの項目が総合魅力度の違いに反映されているのかを見るために、ここでは温泉観光地を例に挙げ、熱海に関する「女性・団体旅行」と「40歳以上・家族旅行」の結果の差異を考察した。

表5は総合魅力度を算出する上での各項目の得点構成を表したものである。

これを見ると、「女性・団体旅行」では特に重みの大きい大項目において、得点の高い小項目の重みも大きくなっており、このため総合魅力度が高くなっている。これに対し、「40歳以上・家族旅行」では得点の高い小項目の重みが小さく、得点の低い小項目の重みが大きいため、総合魅力度が低くなっていることが分かる。

(4)観光地間の比較

総合魅力度に関する観光地間の比較を行う。ここでは温泉観光地に属する熱海と由布院をとりあげ、「女性・団体旅行」における魅力度の差異を検証した。

図4は両温泉観光地の小項目評価点（小項目得点

表5 熱海における魅力度の構成の違い

		小項目				大項目 重み	総合 魅力度	ランク	
		得点	重み	評価点	順位				
女性・ 団体旅行	a	a1	1	3.3	13.0	10	1.5	313.7	A
		a2	1	3.7					
		a3	2	3.0					
	b	b1	5	6.0	38.0	3	2.7		
		b2	2	4.0					
	c	c1	2	3.1	37.7	3	3.1		
		c2	4	3.0					
		c3	5	3.9					
	d	d1	2.8	2.2	27.7	13	2.7		
		d2	2.5	2.9					
		d3	3.3	2.8					
		d4	2.4	2.1					
40歳以上・ 家族旅行	a	a1	1	4.4	12.7	10	1.7	280.8	B
		a2	1	2.9					
		a3	2	2.7					
	b	b1	5	4.8	34.4	6	2.3		
		b2	2	5.2					
	c	c1	2	5.0	32.9	7	3.2		
		c2	4	2.1					
		c3	5	2.9					
	d	d1	2.8	2.4	26.7	13	2.8		
		d2	2.5	2.4					
		d3	3.3	1.7					
		d4	2.4	3.5					

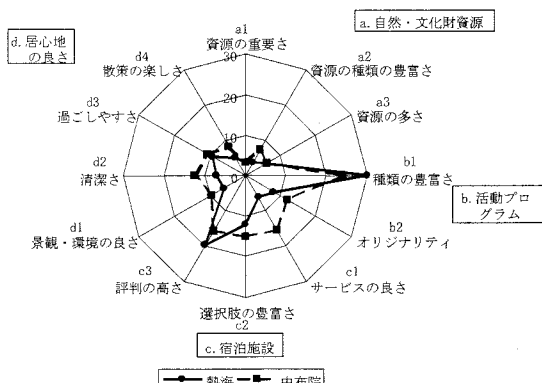


図4 熱海と湯布院の魅力度評価内容の比較
(「女性・団体旅行」のケース)

に重みをかけた値)をレーダーチャートで表したものである。これを見ると、熱海の評価が改善されるためには、以下のような点について個別の改善が必要であることがわかる。

- ・「自然・文化財資源」の「資源の種類の豊富さ」
- ・「活動プログラムの」の「オリジナリティ」
- ・「宿泊施設」の「サービスの良さ」「選択肢の豊富さ」
- ・「居心地の良さ」の全小項目

(5) 本モデルによる魅力度と一般旅行者の評価による魅力度との比較

観光専門家の評価をベースとする本モデルの総合魅力度と、一般旅行者が評価する観光地の魅力度とどのような差異があらわれるのかについて比較するために、全く同一の観光地を対象に一般旅行者の評価に関するアンケート調査を実施した。女性に関する

表6 本モデルと一般旅行者アンケート結果との魅力度の比較 (女性)

	本モデル				一般旅行者アンケート	
	家族旅行		団体旅行		総合魅力度	ランク
	総合魅力度	ランク	総合魅力度	ランク	総合魅力度	ランク
登別	235.2	C	244.2	C	3.9	A
飯坂	167.9	C	162.0	C	3.3	B
草津	360.1	A	373.5	A	4.0	A
伊香保	289.3	B	295.9	B	3.5	B
野沢	290.2	B	294.0	B	3.8	B
石和	191.4	C	202.0	C	3.0	C
熱海	299.8	A	313.7	A	3.2	C
下呂	255.0	C	252.8	B	3.2	C
山代	230.9	C	235.6	C	3.3	C
白浜	318.9	A	326.8	A	3.7	B
城崎	297.2	B	294.2	B	3.8	A
三朝	256.9	B	251.4	C	3.3	C
道後	276.5	B	269.9	B	3.7	B
雲仙	352.9	A	344.8	A	3.6	B
別府	291.1	B	297.4	B	3.7	B
由布院	371.3	A	376.4	A	3.9	A
指宿	284.1	B	284.9	B	3.9	A

比較結果を示したものが表6である。

この結果より、一部の観光地 (例えば、熱海) において、一般旅行者の評価による総合魅力度ランクは、本モデルによる総合魅力度ランクよりも低くなる一方で、その逆の評価がなされているところ (例えば、登別) もあることが分かった。

その要因として、①本モデルでは、観光地が本来持っている魅力度を評価することを目的としていることから、大都市から当該観光地へのアクセシビリティ等空間地理的な条件が考慮されていない、②一般旅行者の評価は知名度と関連が深いことが予想されるが、本モデルでは、知名度や広告宣伝の程度等マーケティングに関する項目を除外している、③一般旅行者の評価は、自分の旅行経験に強く依存していると考えられ、数多く訪問する観光地ほど、その観光地の (限界的な) 魅力が低下していく可能性がある、等が挙げられる。

6. おわりに

本研究では、観光地の魅力度を評価する方法の試案を既存研究をベースとして提示し、その基礎的な特性に関して分析を行った。

一般に、観光地の魅力度に関しては、一定の方向性を与えることが難しい要素が多いため、魅力度の定義付けは極めて困難である。逆に言えば、魅力度は1つに定義付けされるものではなく、様々な角度からの分析・推計により多種多様な魅力度が求められるものとも捉えることができよう。本研究はその多様な魅力度評価手法の1つの試みと考えられる。今後も、観光地の魅力を客観的に評価できる手法の継続的な開発・改良を通して、我が国の観光地の魅力度向上に貢献していきたい。

【参考文献】

- 1) 室谷正裕:「新時代の国内観光－魅力度評価の試み」、運政研叢書 002, 1998
- 2) 室谷正裕:「観光地の魅力度評価－魅力ある国内観光地の整備に向けて」、運輸政策研究 Vol.1, No.1, pp.14-24, 1998
- 3) (財)運輸政策研究機構:「観光地づくりに向けた魅力度評価手法に関する調査報告書」、2001